



## 小山 清人

一般社団法人東北経済連合会 参与

山形大学重粒子線治療施設を核とした  
地域貢献・経済活性化

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとして、キラリと光る存在感のある大学を目指しております。その中で、地域貢献に関する本学の目玉としての取り組みを紹介いたします。

社会情勢として、高齢化に伴い増えているがんは、1980年代から死因のトップで、日本人の2人に1人がかかる時代とされております。がん治療は、体への負担が少なく、機能温存など体に優しい治療が求められます。それを実現できるものが重粒子線がん治療です。重粒子線がん治療は、従来の放射線治療と異なり体の深い病巣にピンポイントで照射するため、がん腫瘍を効率よく死滅させ、治療期間が短く、体への負担が少ないという利点があります。山形大学は、世界最高水準で、しかもコンパクト・省力化の次世代型装置を、空白地帯である東北・北海道で初めて、2019年度治療開始に向けて設置を進めております。

次世代型重粒子線照射装置の導入に先駆けて、東北地方に在住する全ての住民が適切ながん医療を受けられるよう、東北各県の医療従事者による情報・意見交換を通じ、がん医療水準の均てん化を推進し、さらにその向上を目指すことを目的とした全国でも希少な広域がん医療連携“東北がんネットワーク”を形成しております。また、東北6県および新潟県の患者さんが住んでいる地域にかかわらず、最適な放射線治療を選択できることを目的とした、東北6県及び新潟県の大学病院・地域連携病院60施設で構成される“広域がん放射線治療ネットワーク”を形成しております。これにより、患者さんが遠方に出向くことなく、TVカンファレンスを使って医師同士が治療の相談を行うことが可能となり、東北6県および新潟県の住民の利便性・福祉向上効果が期待されます。

さらに、山形大学重粒子線照射施設を核として医療インバウンドの体制を確立するため、外国人患者の呼び込みや重粒子線施設の情報発信に組み込み、東北6県および新潟県の地域創生につながるよう、地域経済の活性化を目指しております。

(山形大学 学長・こやま きよひと)